



の

と



レ

タ

ー

<発行元>

西宮市社会福祉協議会

すまいるプロジェクト

TEL:0798-23-1140

FAX:0798-23-3910

NO. 2

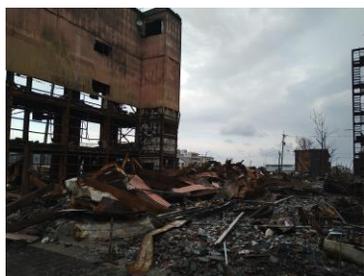
2024年12月発行

社協職員 奥能登豪雨 被災地レポート(10/8~10/9)

9月21日、能登半島地震の被災地は、記録的な豪雨に見舞われました。西宮市社協では、西宮のみなさんと被災地に向けてできることを考えるため、職員が現地に向かいました。現地や被災者の様子をお届けします。



水没した仮設住宅



▲被災直後(輪島朝市)



▲現在の輪島(10/13)

輪島市 水害被災状況		
降水量	1時間	121ミリ
住家被害	全壊	10棟
	床上浸水	150棟
人的被害	死者	10人
	重軽傷者	35人



～輪島朝市の方との出会い～

仮設住宅に住む1人の女性に出会いました。その方は輪島の朝市で商店を営まれていて、今回の地震により火災に遭い、仮設住宅で暮らしていました。そしてやっとほっとできた所に今回の大雨。「音がすることもなく、気づけば胸の高さまで水がきていた」とのこと。この方は、再び避難をすることとなり、現在は、家族のお店の2階倉庫に仮住まいをされています。



現在、輪島朝市の皆さんは「出張輪島朝市」として全国を訪れています。11月末には関西学院大学でも朝市が開催されました。この女性は「西宮に行くことを本当に楽しみにしている。仮住まいではゆっくり寝られないけど、出張朝市の時だけはあったかい布団で寝られる」と話されていました。

復興支援 仮設住宅への訪問&交流

With関西学院大学・NVNAD(日本災害救援ボランティアネットワーク)

10月11日～13日 関西学院大学(ヒューマン・サービス支援室)とNVNAD(日本災害救援ボランティアネットワーク)が石川県七尾市で行う交流イベントに社協職員が同行しました。現地や被災者の状況をお伝えします。

イベントの開催

仮設住宅の近くにある集会所を利用し、子どもから高齢者までが楽しめる交流会を開催。現地の方々が交流し、顔を合わせる機会を学生たちが作りました。参加者からは、「また来てね。楽しかった。」と学生たちに声かけられました。交流会を通して、参加者同士が交流の機会を持つ、良いきっかけとなっていました。



西宮の子どもたちが作ったお菓子ポシェットを現地の子供たちへプレゼント！



お菓子ポシェットとは、阪神・淡路大震災の時に作られた「防災グッズ」です

この仮設住宅では、約4小学校区分の広さの地域から集まっているため、顔見知りかほとんどいない状況。コミュニティづくりのため、さまざまなイベントを開催しています。



茶話会の様子
囲碁やゲームを実施

ワークショップの開催

地震に遭い、避難所生活を送られた方々に来ていただき、ワークショップを行いました。

民生委員、女性会、老人会の方々20名に参加していただき、1月の地震の状況や災害時の教訓について話し合いました。みなさん共通して、「あいさつからでいいから近所づきあいをすることが大事。この関係性があったからこそ、避難所生活の中でも助け合っていた」と話されていました。

支え合ってきたからこそ出てきた「重みのある言葉」をいただきました。



近所づきあいは、
かない人に
平常時から
地域コミュニティの
連携のために
少しづつづきあいを
持つように。



この地域では、被災後、避難所生活ののち、ご自宅にて生活されています。被災者が地震や避難所のことを学生に伝えることで、震災を振り返り、また、今後の地域をどうしていくか、考える時間となりました。